

事業評価票

444	「東京都防災アプリ」のコンテンツ充実 (総務局総合防災部／一般会計)	事業開始	平成 29 年度
		事業終期	平成 33 年度

【局評価】

1 どのような経緯で事業を始めたか、何をを目指すのか
○ 防災ブック「東京防災」を平成27年度に制作し、都民に配布したが、若年層への周知に課題があったのと同時に、書籍以外の媒体として、スマートフォンのアプリを望む声も数多くあり、媒体を変えて防災対策の普及啓発を図ることとした。 ○ 「東京都防災アプリ」は、平成30年3月にリリースし、「あそぶ・まなぶ・つかう」のコンセプトに従って、日常的に楽しみながら防災対策を学べ、また発災時にも有用なコンテンツを備え、都民へ防災対策を普及することを目的に運用を行っている。
根拠法令等

2 どのように取り組み、どのような成果があったか
○ リリース後は、多言語対応の充実を図るほか、コンテンツの更新、機能の拡張を行うなどして、魅力を向上させつつ、より「使える」コンテンツづくりを行っている。 ○ 総ダウンロード数は183,083件（平成31年1月1日現在）。 ○ 日本各地で災害が発生した際、被災地を中心にダウンロード数が増加しており、都内のみならず全国的に本アプリが有効に活用されている（大阪府北部地震や西日本豪雨等において、SNSやWeb上の記事にて好評を得た）。 ○ 「防災の日」や総合防災訓練実施日など、都民の防災意識が高まる際に、本アプリのダウンロード数が増加しており、本アプリが都民の防災普及啓発ツールの一つとして有効に活用されている。

3 どのような課題や問題点があったか
○ 近年多発している風水害等の災害を踏まえ、本アプリにおいて災害時の情報を収集する際のアクセシビリティが課題となった。特に風水害に関する河川水位・雨量の情報提供や区市町村のホームページ・ハザードマップ等へのアクセシビリティが十分とは言えない状況にある。 ○ 上記について、本アプリの利用者にとって分かりやすい箇所に配置を行い、情報が得やすくなるようコンテンツとして整えることにより、情報のワンストップ化を図る必要がある。 ○ 現在、災害情報のリアルタイムでの提供は日本語のみで行っており、多言語での提供は行っていない。

4 局として、事業をどうしていきたいか							
拡大・充実		見直し・再構築		移管・終了		その他	
○ 風水害に備えた独自コンテンツを充実させるのと同じに、水防災システムや東京アメッシュなどの他システムとの連携構築を図り、アクセシビリティの向上を図る。 ○ 上記を実施することで情報のワンストップ化が図られ、風水害関係への都民の情報アクセスの向上が見込まれるほか、都民への防災の事前普及啓発の更なる向上が図られ、災害への備えの充実が見込まれる。 ○ 東京都防災ホームページへ誘導するほか、既に多言語での災害情報の提供を行っている訪日外国人向けサイト等と連携させるなど、多言語での災害情報等の収集を行いやすくする。							
歳入	29年度決算額	—	千円	歳出	29年度決算額	19,440	千円
	30年度予算額	—	千円		30年度予算額	10,200	千円
	31年度見積額	—	千円		31年度見積額	69,530	千円

【財務局評価】

5 財務局として、成果や課題などについて、どう考えたか
○ 利用者のニーズに積極的に対応していくことで、より活用しやすいアプリを開発していく必要がある。 ○ 震災だけではなく、西日本豪雨等の風水害が起きた際にも活用できるようアプリを改修していく必要がある。

6 31年度予算で、どのように対応したか				
拡大・充実		見直し・再構築	移管・終了	その他
○ 災害時に備え防災対策を啓発していく必要があることから、局案のとおり計上する。				
歳入		31年度予算額		— 千円
歳出		31年度予算額		69,530 千円